

善逝寺（ぜんぜいじ）の裏山にコブシの花が咲き、かすんだ空に吉舎の春を感じています。久しぶりに尾崎山公園へ向かうと、木瓜（ぼけ）の花が鮮やかに咲いていました。



馬洗川（ばせんがわ）沿いの土手の桜はもうすぐ満開です。私は、思い立って敷地の大楽寺（だいらくじ）のしだれ桜を見ようと車を走らせました。大楽寺の桜は、やっと枝先の桜が開花したばかり。これなら、日彰館の桜土手を見た後にも、桜が楽しめるなど得をした気持ちになりました。



4月6日の生徒の登校を心待ちにしながら、大楽寺の満開のしだれ桜も楽しみに待つことにしました。

桜はあっという間に花が終わります。見逃さないように、一日一日を大切に、変化を楽しもうと思います。そういえば、大楽寺の帰りには、かわいらしい馬酔木（あせび）の花が目に留まりました。



この3年間には、後鳥羽上皇に関わる名所を訪ねたり、銀山街道を歩いたり、南天山にも登り、古い歴史もたくさん知ることができました。こんな、自然いっぱい吉舎町に、ますます愛着を感じています。

こんな自然や歴史豊かな吉舎町のことを、吉舎中の子どもたちにもたくさん知って、意識してもらいたいと思います。学校で学ぶことはたくさんあります。それに加え、吉舎の自然や歴史、そして温かい吉舎の皆さんとのかかわりを通して、ふるさと「きさ」を愛し、誇りに思う生徒を育てていきたいと思っています。

また、「吉舎は教育の町」と言われるのは、奥愛次郎先生が創立された日彰館高等学校の存在があるからだと思います。「衆縁和合」の精神が今もしっかりと受け継がれ、家族のように温かい学校づくりをされています。

本校も、道徳教育を基底に据えて、生徒と先生の人格の触れ合いによって一人一人が力をつけていけるような学校づくりを行っていきます。今年度もよろしくお願ひします。

令和2年4月1日

吉舎中学校長 山田 行高